

怯える人々



東郷 潤

あるところに、いつも怯えている人が
いました。彼が歩いているのは、真っ
暗な闇の中です。怖くて怖くてたまり
ません。闇から何が飛び出してくるで
しょう？

こ、怖いよお…



あ！ 突然、何か白い物が目の前に。
きっとお化けです！！

ギャーッ！
こ、殺される！



思いっきり棒を振り回しました。

あっち行け！



再び歩き始めました。

するとまた突然何かが目の前に。お化けでしょうか、それとも怪物？

ひえー！
怖いよお！

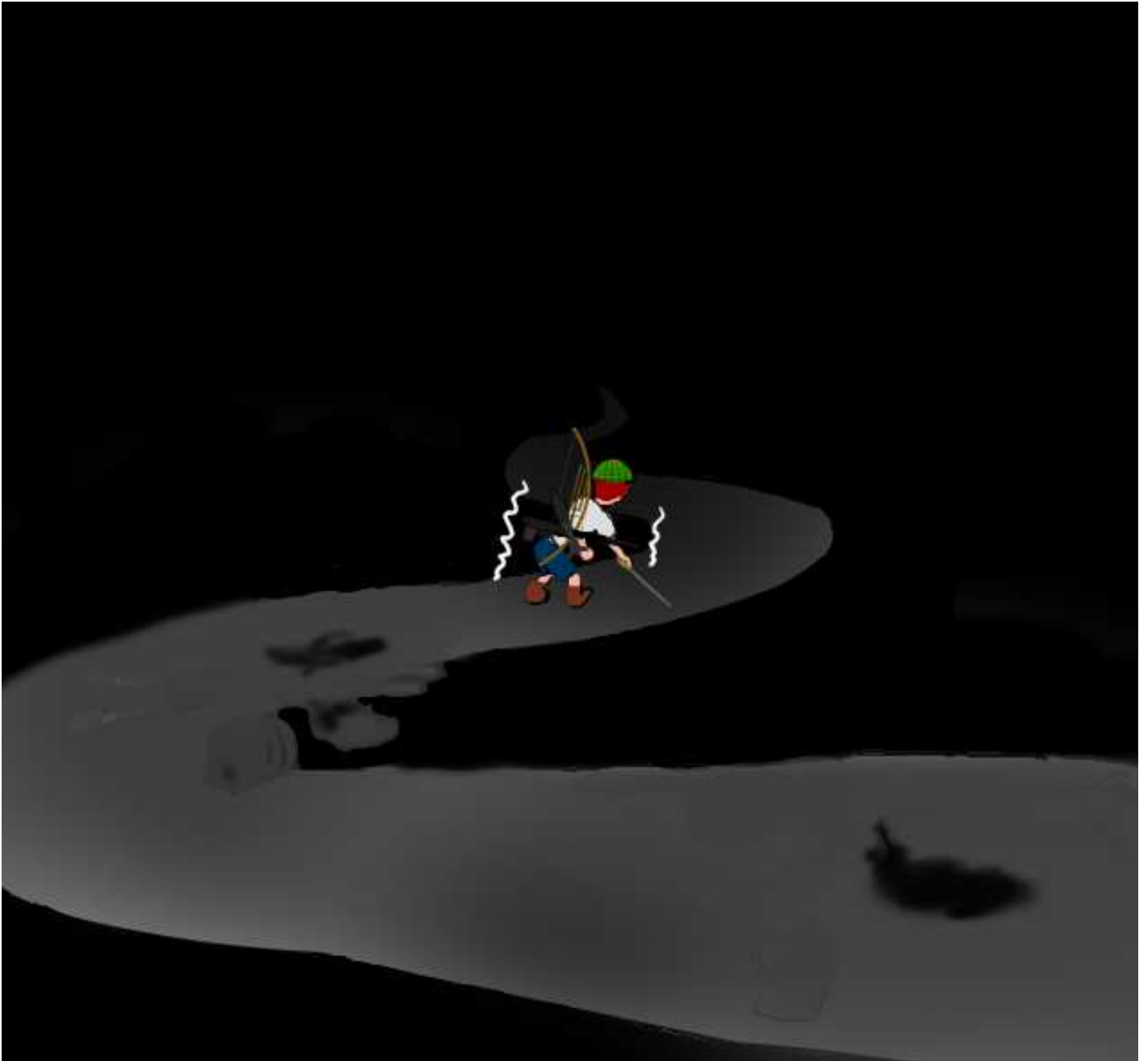


思いっきり、拳銃を撃ちました。

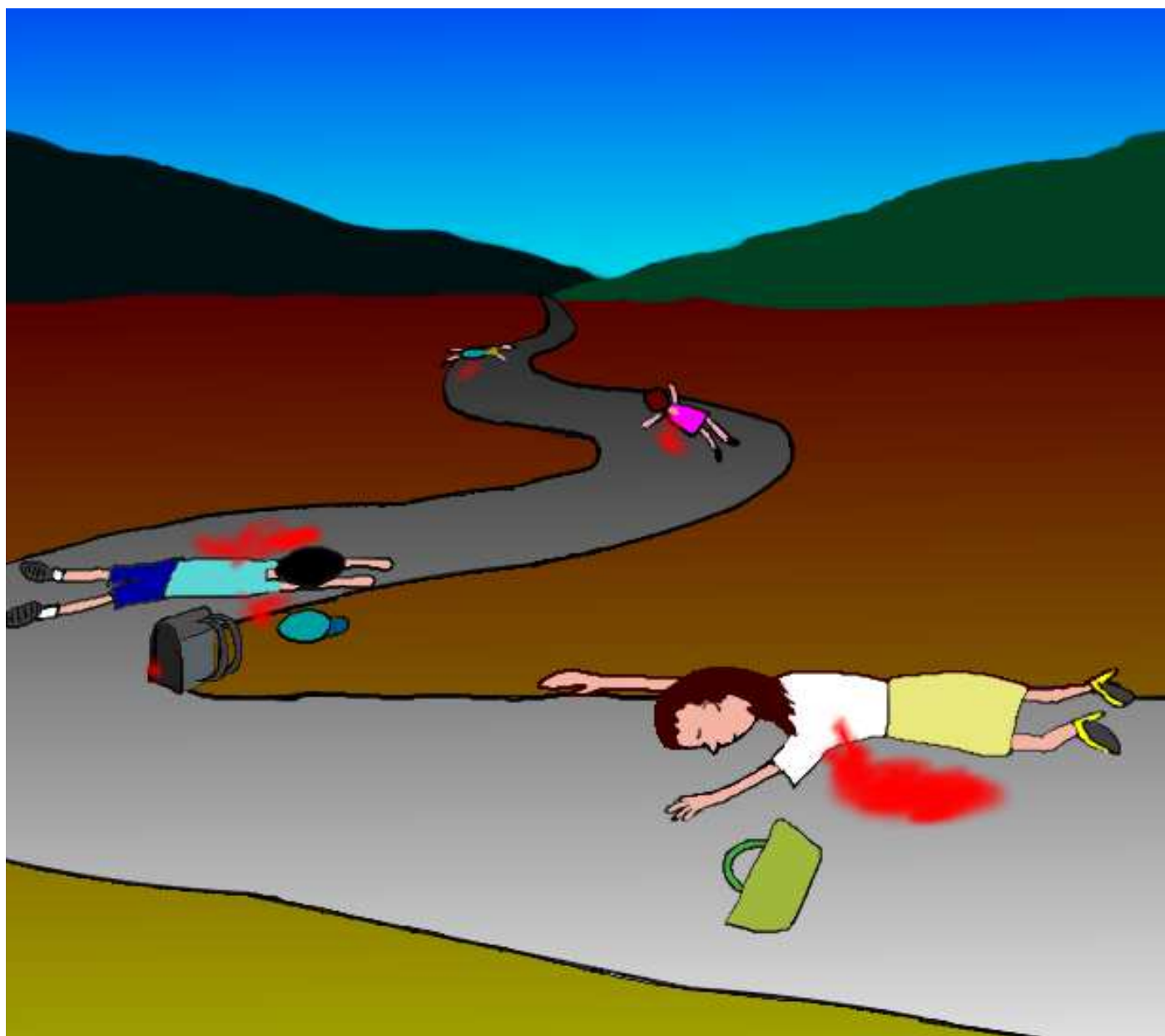
誰か、助けて！



**こうして、彼は闇の中を怯えながら、
必死で歩き続けました。**



翌朝、彼が通った道には、大勢の人々の死体が転がっていました。



世界には狂暴な人って、
たくさんいるけれど…
みんな、怯えているのかな？



あとがき —絵本「怯える人々」

もし、人々の怯えを測る測定器があったなら、と考えることがあります。世界の人々は、どれほどの恐怖を抱えて生きているのでしょうか？ そして、この恐怖がどれほどの悲劇の原因となっているのでしょうか？

本絵本はそうした悲劇を地球上から減らしていくことを目的に、執筆したものです。

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、他の方にも読ませてあげていただければと思います。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることができます。

www.j15.org

©Jun Togo 2009